



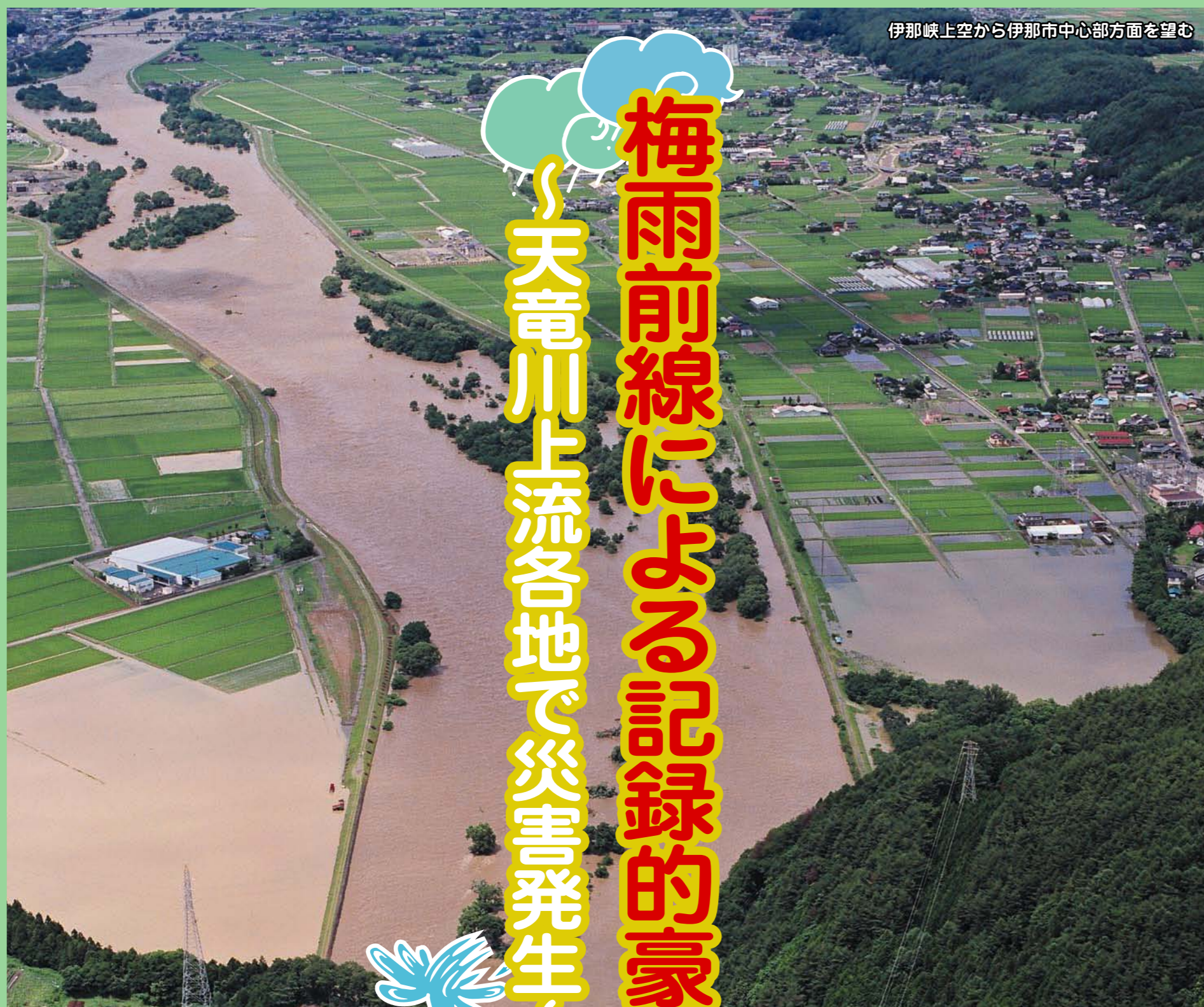
笑顔、きらきら、天竜川。  
天竜川上流  
河川事務所

# 天竜川通信

2006 extra  
平成18年7月豪雨  
特集号

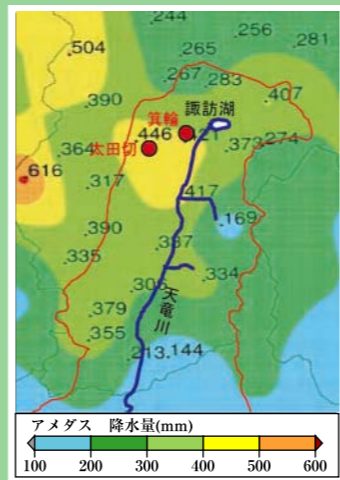
梅雨前線の活発な活動にともなって発生した大雨により、天竜川上流域では土砂災害、出水による天竜川の堤防欠壊をはじめとする河川災害が数多く発生しました。天竜川通信(特集号)では、今回の集中豪雨による天竜川の被害の概要と天竜川上流河川事務所における復旧対策の取り組みについてお知らせします。

伊那峡上空から伊那市中心部方面を望む



梅雨前線による記録的豪雨  
天竜川上流各地で災害発生

7月15日以降、本州付近に停滞した梅雨前線は、南からの暖かく湿った空気の影響でその活動が活発となりました。長野県内では18日夕方以降、強い雨雲が中部から南部にかかり、降り始め(15日6時)から19日10時までの総降水量が中部、南部で400mmを超えるところがあるなど、記録的な大雨になりました。天竜川水系では、各地の水位観測所で警戒水位を超過し、所により計画高水位あるいは危険水位に達しました。また、今回の出水では、一部流量観測開始以降で最大となる流量を記録しました。今回の大雨により、天竜川上流の各地で浸水や、堤防欠壊などの被害が発生しました。



長野県内で発生した主な被害

人的被害(人)				住家被害(棟)		
死者	行方不明者	負傷者	全壊	半壊	床上浸水	床下浸水
12	1	20	17	21	860	2,470

(8月4日時点。消防庁発表資料より)



箕輪町松島地区の堤防欠壊

## 第4回 天竜川シンポ 開催しました。

日 時:平成18年7月9日(日) 13:45~16:30  
場 所:伊那市生涯学習センター(いなっせ)ホール

### 「川はみんなのもの」

パネルディスカッション ~川とのつきあい方を考えてみよう~

地域の市民活動や児童の環境教育を通じて天竜川の自然と向き合っている方々をお迎えし、日頃の活動内容や天竜川への想いについての意見を交わしました。



伊那名物ザザムシなどの水生生物の水質浄化能力できれいな水になった

コーディネーター 吉田 利男 信州大学名誉教授

昭和30年代の天竜川は、物資運搬の手段や、魚釣り、水泳といった遊びの場であり、家族そろって記念写真を撮る場でもあったりして、川と人々の生活が密接につながっていました。

伊那名物のザザムシの佃煮は、ザザムシ(ヒゲナガカワトビケラ)がどのようなものをエサにしているかで、味が大きく変わります。上流から流れてくるものがまずいものであれば、佃煮もまずくなります。

天竜川の場合、1㎡あたりのザザムシ生息数が他の河川に比べて、多いことがわかっています。貴重なタンパク源であったという理由とは別に、この生息数の多さも、伊那地方で昔からザザムシ漁が盛んだった理由として考えられます。

ザザムシなどの水生生物は、川の中にある石の下側にネットを作り、上流から流れてくるプランクトンやごみを食べ生息していることから、水質を浄化する能力があります。ここ天竜川でも最近ではきれいな水に住むカワゲラも増えてきています。

桜も川もその場に行って、自分の身体を通して感じる事が大切

パネリスト 北條 由美 伊那市立伊那小学校教諭

昨年度から美和ダムの「桜守」としてダム湖畔の桜を児童と守る活動を行っています。その過程で暴れ天竜の歴史と美和ダム建設の経緯と役目を知りました。

実際に桜に関わるということで、毎日生きている桜、自分達と同じように生きているんだということを実感すること、さらに桜を守る人々の想いや桜と共存する生き物などの存在を知り、大きく環境を理解することができました。まずは自然の中に飛び込み、年間を通じて自然と触れ合うこと、そうすれば自分の身体を通じて自然を理解して本当の自然への愛情というものが持てると思います。

水源域まで含め、川の楽しみ、恵み、文化を市民みんなで考えていきたい

パネリスト 織井 秀夫 三峰川みらい会議代表

三峰川行政懇談会での議論に始まる、外来植物アレチウリの駆除や河原のニセアカシアの伐採ボランティアといった「河川環境管理活動」を行っています。アレチウリ駆除活動は、民間から行政へ訴えかける活動として始まりましたが、しだいに長野県下全体の行動へと、活動が広がっています。

「川で楽しむ活動」として、三峰川まつり、写生大会などのほか榛原河川公園内に中聖牛(古くから伝わる水防工法のひとつ)を組み立て、市民や子ども達が川の恵みや水のありがたさを知るための活動を行い、もっと市民が川に親しめるようにしたいです。

下流の市民、さらに官民学交流のもとで天竜川を次世代につなげたい

パネリスト 福澤 浩 市民団体天竜川ゆめ会議会長

アレチウリ駆除、河川清掃、ハリエンジュ伐採などの活動のほか、小波川の源流を辿るなどの川で楽しむ活動も行っています。こうした市民活動の根っこには、天竜川に遊んでもらい、天竜川に育ててもらった恩返しという想いがあります。

現在、上流では外来植物、水質問題が重要課題ですが、浜松市民との交流を通じて、下流では上流からの土砂運搬が減少したために起こる海岸浸食が深刻な問題であることがわかりました。しかし、みんなで素晴らしい川を取り戻そうという目標が一致しています。市民団体どうしそして行政との連携により目標は達成できると思います。

いろいろな川の表情を見ながら、10年後、20年後も川と友達に

パネリスト 三上 幸三 天竜川上流河川事務所所長

水辺の楽校などの施設を整備するまでを行政が行い、維持管理やその後の利用は地元住民の皆様に担って頂くことになります。おかげさまでかわらんべは毎年入館者数が増えています。

また、子供達も参加できる天竜川シンポの開催や、天竜川にまつわる文献の収集整理、さらに「川たんけんブック」など小中学校の学習教材の作成、天竜川流域ネットワーク(Tenet)によるイベント情報配信など、皆さんに川を実際に知ってもらうための支援活動をこれからもしていきます。

川には人間と同じようにいろいろな表情があり、楽しいだけでなく危ない場面もあるということも知って欲しいです。

最後に、昨年度のアレチウリ駆除、河川清掃参加者は、延べ2070名でした。また、冬季ハリエンジュ伐採作業では575名のご参加をいただきました。皆さまのご協力により川がきれいになりました。ありがとうございました。



### 水辺の活動報告~みんなの川~

地元の子もたちから、天竜川が育む自然をフィールドとした学習活動からの発見や感動体験の報告がありました。

辰野西小学校 カワナ委員会  
「小さな命を育ててーカワナの養殖に取り組んで」

辰野町のホタルの保護に関わる活動として、ホタルの幼虫のエサとなる淡水貝カワナの養殖をしています。養殖に適したエサ選びから始まり、試行錯誤の結果、これまでに約9000匹を放流しました。今後もカワナの養殖を続け、辰野町のホタルの保護活動に取組みたいです。



伊那小学校6年勇組  
「桜から感じた命」

三峰川的美和ダムと青島堤防にあるソメイヨシノを、病気で虫による害から守る「桜守」として活動しています。春には多くの人の目を惹きつける桜は、植えてから約100年経ち、手入れされていないことが多いので、きちんと世話をし、桜に感謝の気持ちを伝えることが桜にとって幸せなことです。



天竜川総合学習館かわらんべ こども研究員  
「水辺の楽校は 自然がいっぱい 感動がいっぱい」

かわらんべでは、今日紹介する10講座をはじめとして、いろいろな自然体験学習の講座があります。講座への参加を通じ、以前は興味が無かったことに対し興味や関心を持ち、天竜川の動植物について理解が深まり、親しみを覚えるようになりました。



●皆さまからの情報、ご要望などをお待ちしています  
天竜川上流河川事務所「天竜川通信」係  
〒399-4114 長野県駒ヶ根市上穂南7-10  
TEL 0265-81-6415 FAX 0265-81-6421  
ホームページ <http://www.cbr.mlit.go.jp/tenryo/>  
Eメール [tenryo@cbr.mlit.go.jp](mailto:tenryo@cbr.mlit.go.jp)

今回の集中豪雨で県内各地において発生した水害や土砂災害により、貴重な人命が失われるとともに、浸水などの家屋被害も多数発生しました。被害に遭われた住民の皆様、ご家族・ご親族の皆様には、心よりお見舞い申し上げます。